

自己の課題を解決し続け、 よりよい生き方を探究する学習

—道徳性の諸様相を明確にした学びの連続を通して—

I 特別の教科道徳研究の方向性

1 主題設定の理由

平成30年4月1日から、小学校において、特別の教科道徳（以下、道徳科）が全面実施となっています。これは、教育再生実行会議の提言や教育の充実に関する懇談会の報告、中央教育審議会答申「道徳に係わる教育課程の改善等について」を踏まえたものであり、道徳に係る「学習指導要領の一部改正」の告示、平成29年3月31日告示の小学校学習指導要領の全面改定によるものです。

学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の目標は、小学校学習指導要領にあるように「自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養う」ことであり、道徳教育の要である道徳科の目標は、「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値の理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる」ことです。これらのことが、「道徳科で育成を目指す資質・能力」であり、児童一人一人の資質・能力の育成に帰結します。

本校の道徳性の実態を見ると、高学年（4～6年生）の児童が全国平均より望ましい傾向にあります（令和2年6月実施の道徳性アセスメントHUMANの結果より）。これは、6年間の道徳科を始め、教育活動全体を通じた道徳教育の積み重ねの成果と言えます。また、前研究（平成28年～令和元年）において、道徳の教科化に向けて授業の質的変換を目指したことに起因すると推察します。

このように、本校の児童は学年が上がるに連れて道徳性が高まっています。しかし、それが道徳的行為として表れているとは言い切れません。そこで、道徳教育の要である道徳科の学習をより充実させる必要があります。

こうした前研究の成果と課題、さらには全体研究主題を踏まえて、道徳科では、研究主題を「自己の課題を解決し続け、よりよい生き方を探究する学習—育てたい道徳性の諸様相を明確にした学びの連続を通して—」と設定しました。

「自己の課題を解決し続け」とは、「児童自身が自ら学び道徳的価値について興味をもち、自己との関わりをもって学習に取り組み続けること」を、「よりよい生き方を探究し続ける」とは、「他者との学び合いを通して、児童自身が道徳的価値について自らの考えを深め、他の教育活動での道徳的実践の指導と関連し合っ、一人一人の道徳性が高まること」を表しています。

2 目指す児童の姿とその具体

- ①自己を見つめ、課題意識をもち続ける児童
- ②他者の考えと自分の考えを比較しながら多面的・多角的に考えられる児童
- ③学びを生かして「よりよい生き方」について前向きに捉え直す児童

上記は「①児童自身が道徳的価値に関する今の自分の課題を理解し解決しようとする心構えをもつ姿」、「②これまでの自分の経験やそのときの感じ方、考え方と照らし合わせて、友達と対話したり協働したりして、物事を様々な角度から見て、考え、よりよいことを判断し、表現しようとする姿」、「③どうすればよいかわかっているけれどできない心を、少しでも前向きに捉え直しながら行動しようとする姿」を表しています。

II 研究内容の具体

1 道德性の諸様相を明確にしたカリキュラム構想

道德性の育成を目指した学びにおいて大切なことは、何を育てるのかを明確にすることです。つまり、道德科の学びを通して、道德的判断力を育成するのか、道德的心情を育成するのか、道德的実践意欲と態度を育成するのかなど、道德性の諸様相の何をねらって学びを構想するのかを明らかにすることが重要です。そこで、視点1では、道德性の諸様相を明確にした道德科のカリキュラム構想について研究を進めました。

2 道德性の諸様相に応じた「学習指導過程」と「指導方法」の構想

道德性の育成を目指すためには、その要となる道德科の授業を充実させる必要があります。そのためには、道德性の諸様相を明らかにし、その諸様相に応じて「学習指導過程」を変えることが大切です。また、道德的価値に関わる事象について自分事として捉え、互いの考え方、感じ方を交流できるような「指導方法」を選択することも求められます。そこで、視点2では、道德性の諸様相に応じた「学習指導過程」(表1)と「指導方法」(表2)について研究を進めました。

		道德性の様相		
		道德的心情	道德的判断力	道德的実践意欲と態度
【展開前半】		「登場人物への自我関与が中心の過程」	「問題解決的な学習が中心の過程」	「登場人物への自我関与が中心の過程」 「問題解決的な学習が中心の過程」
		共感的追求 (心情変容契機の意味追求) <発問の例> 「～はどんな気持ちや考えだろう」 「～は何だろう、なぜだろう」 「～はどのように(考える)か」	分析的追求 (乗り越えたい心の分析) <発問の例> 「～はどんな気持ちや考えだろう」 「～は何だろう、なぜだろう」 「～はどのように(考える)か」 「～についてどう考えるか」	共感的追求 (心情変容契機の意味追求) 分析的追求 (乗り越えたい心の分析)
【展開後半】		<u>道德的価値の表現場面を交流する。</u> <u>自己を見つめ、思いを温める。</u> <発問の例> 「今までに〇〇したこと、〇〇がいまいちなど思ったことはありますか？」 ※自己評価 等	<u>同構造の道德的事象について話し合う。</u> <u>生き方の今の答えをもち。</u> <発問の例> 「あなたは〇〇の場面でどうしますか？」 ※自己評価 等	<u>生き方の今の答えをもち、</u> <u>互いに交流し合い、認め合う。</u> <u>より具体的な場面をイメージして、</u> <u>どうしたいかを考える。</u> <発問の例> 「これから大切にしていきたい〇〇はありますか？」 ※自己評価 等

表1 学習指導過程

教具
心の円グラフ、心情メーター、表情絵、ネームプレート、場面絵、写真、ミニホワイトボード、ICT等
思考ツール
イメージマップ(多面的に見る)、座標軸(多面的に見る)、マトリックス(多面的に見る)等
板書
教材の話の流れに沿った板書(縦書き) 教材文中のAとBの違いを対比した板書(縦書き、横書き) 授業前半と後半の考えの変化を意識した板書(縦書き、横書き) 友達との考えの違いを対比した板書(縦書き、横書き) 授業のテーマを中心に置いた板書(横書き) ICTの活用 等

表2 指導方法

3 よりよい生き方を探究し続けるための評価

道德科における評価とは、児童の側から見れば、自らの成長を実感し、意欲の向上につなげていくものであり、指導者の側から見れば、目標や計画、指導方法の改善・充実に取り組むための資料となるものです。そこで、視点3では、「授業で見取る児童の学習状況の評価」と「学習指導過程や指導方法について指導者が自らの授業を振り返る評価」「児童における自己評価」について研究を進めました。

<2年次研究の重点>

- ・道德性の諸様相に応じた「学習指導過程」(問題解決型を中心に)、「指導方法」
- ・よりよい生き方を探究し続けるための児童の自己評価

Ⅲ 研究実践

5年生実践 『権利と義務について考える』C 規則の尊重

実践のテーマ：権利と義務の関係を友達との交流を基に考えることを通して、
自他の権利を大切にし義務を果たそうとする意欲や態度を育てる学習

1 研究授業のねらい

本主題は、学習指導要領特別の教科 道徳編の第5学年及び第6学年における内容項目「C 主として集団や社会との関わりに関すること」の「(12) 法やきまりの意義を理解した上で進んでそれらを守り、自他の権利を大切にし、義務を果たすこと」に関わるものです。

高学年の段階においては、社会生活上のきまり、基本的なマナーや礼儀作法、モラルなどの倫理観を育成することが必要となってきます。また、日常生活において、権利と義務という観点から、自他の行動について考えを深めたり、それらを尊重したりするという事は少ないです。

他人の権利を理解、尊重し、自分の権利を正しく主張するとともに、義務を遂行しないで権利ばかり主張していたのでは社会は維持できないということについて具体的に考えを深め、自分に課された義務についてはしっかり果たそうとする態度を育成することが重要です。

本実践では、学習発表会に向けてキャストを選出する際、ピアノの練習を優先したい村田さんと、村田さんをメインキャストに推薦したい友達とが学習発表会の成功のために話し合いをするという状況から、自分だったらどうするかを考えます。考えを交流することを通して、権利と義務の関係について理解し、集団生活を送る上で自他の権利を尊重し合い、自分の義務を進んで果たそうとする意欲や態度を育てることをねらいとしました。

2 学習構造図と教材分析表

5年 道徳科学習構造図
主題名「権利と義務について考える」～C 規則の尊重 教材名「これって『けんり』?これって『ぎむ』?」

【学校の重点目標】
「やりとげんり」～自己の目標に向かって、強い意志と健康な体で粘り強く最後までやりとげなす
【道徳教育の年次目標】
粘り強く最後までやりとげ、自らを律し、最後までやりとげる。
【高学年における年次の重点】
自分より高い目標を立てて、困難や失敗を乗り越えて最後までやりとげることができる。

【学習指導要領との関わり】：第5学年及び第6学年の内容
【主題名】権利と義務について考える
【内容項目】C 規則の尊重
【関連項目】

【学習指導要領におけるねらい】
法やきまりの意義を理解した上で進んでそれらを守り、自他の権利を大切にし、義務を果たすことに関する内容項目である。

【前提知識】
人の権利を理解、尊重し、自分の権利を正しく主張するとともに、義務を遂行しないで権利ばかり主張していたのでは社会は維持できないということについて具体的に考えを深め、自分に課された義務についてはしっかり果たそうとする態度を育成することが重要である。

【児童観】
友達と意見を交流することで、多面的・多角的に考えることができるという交流のよさを実感している児童が多い。また、これまでの学習によって「規則の尊重」についての理解が深まっている。さらに、「権利と義務」の意義の理解についても、大多数の児童が言葉の意味について理解している。このような実態を考慮し、「権利と義務」の意味について教員に確認しながらも、日常生活において「権利と義務」とは何か、なぜ大切にするのかなどを、友達との交流を中心として関心かけ、今後の自分の生活でも大切にしていこうという意欲や態度につなげたい。

【学級の実態】
・教員が HUMAN 道徳性アセスメントの結果では、道徳的心情、道徳的判断力の両方において全国よりも望ましい傾向にある。
・自分以外の他者に伝えることができるが、他者の権利を尊重し発言したり行動したりする児童は少ない。

【他教科・他領域との関連】
○学校生活～休み時間、学習時間、清掃、係活動
○学校行事～はな組集会「長縄跳びに挑戦集会」、学業委員会

【教材観】
教材の前半は児童に馴染みのない「権利と義務」という言葉の理解がしやすいよう、身近な生活場面を用いた短い問題で構成されています。後半は、学習発表会に向けてキャストを選出する際、ピアノの練習を優先したい村田さんと、学業委員会を成功させるために村田さんをメインキャストに推薦したい友達と話し合いをするという展開となっている。

【教材名】「これって『けんり』?これって『ぎむ』?」(東京書籍)
【教材の概要】教材の前半は、児童に馴染みのない「権利と義務」という言葉の理解がしやすいよう、身近な生活場面を用いた短い問題で構成されています。後半は、学習発表会に向けてキャストを選出する際、ピアノの練習を優先したい村田さんと、学業委員会を成功させるために村田さんをメインキャストに推薦したい友達と話し合いをするという展開となっている。

【本時のねらい】
権利と義務の関係について理解し、集団生活を送る上で自他の権利を尊重し合い、自分の義務を進んで果たそうとする意欲や態度を育てる。

【学習テーマ】
「お互いの権利を大切にしながら義務を果たすにはどうしたらいいだろう。」

教材分析シート

教材名	これって『けんり』? これって『ぎむ』?	主題・内容項目	権利と義務について考える。C(12)規則の尊重
1	<p>教材を読む(音読をつかわず)</p> <p>①生き方を自覚(変化)したものは何か(主人公) 村田さん、学級のみんな</p> <p>②生き方を自覚(変化)することになった出来事(発言)は何か 田さんが自分の都合を主張したこと</p> <p>③生き方を自覚(変化)するのはどこか 学業委員の田中さんの言葉</p>	5	<p>中心場面以外の場面の発題 (※場面数は教材による)</p> <p>予想される児童の反応(答)</p> <p>・村田さんの権利と義務は何でしょう。 ・学級全体の権利と義務は何でしょう。</p> <p>・村田さんは遊ぶことやピアノをする権利があり、順に協力する義務がある。 ・学級全体ではキャストをお願いする権利があり、みんなの権利を大切にすることを義務がある。</p>
2	<p>(構図)</p> <p>before → after</p> <p>ピアノのレッスンの方が大好きだ。</p> <p>委員長の田中さんの言葉</p> <p>メインキャストの都合を全部聞いていたら練習日は休むことができないかもしれない。</p>	6	<p>ねらい</p> <p>(A) 自分の権利と義務の関わりを考える (道徳的に変化する)主人公を通して</p> <p>(B) 自他の権利を大切にし、自分の義務を果たそう しようとする</p> <p>(C) 実践意欲や態度 を育てる。</p>
3	<p>中心場面</p> <p>自分がこの学級の干渉者として、学業委員会を成功させるためにどうしたらいいでしょう。</p>	7	<p>※書き方</p> <p>(A)：教材の活用を整理して表題する。(主人公が道徳的に変化する場合は「出来事(発言)」の部分を抜き出して表題する。 (B)：内容項目から適切に抜き出す。 (C)：内容項目から適切に抜き出す。</p>
4	<p>中心場面に対する予想される児童の反応(答文)</p> <p>・村田さんにはメインキャストではなく裏方をお願いして、他にメインキャストをお願いできそうな人を探す。 ・村田さんがメインキャストに向いていることは確かなので、練習日を変更する。 ・練習日が放課後にあることが問題であるので、放課後に練習をせず、休み時間別に練習を教える。 ・メインキャストの選を増やし、一人一人の負担を減らす。</p> <p>補助発題(道徳的価値をさらに深く考えられるように問いを準備する) ・全員が同じ学習態度を認めるために「方法」はなせよう。 ・自分の権利ばかり主張しないで、学業委員会は成功するのだろうか。</p>	7	<p>本時で考える道徳的価値(※上記⑥の(B)の理解)</p> <p>高学年は、倫理観を育成することが重要な段階であるが、「権利と義務」について自分の生活と結びつけて考えることは多くない。しかし、集団生活を送る上では、みんなで互いの権利を尊重し合い、自らの義務を遂行して果たそうとすることが重要である。このことから、権利と義務の関係性を理解し、自分の権利だけでなく他者の権利も尊重しながら、果たすべき義務について自分事として考え、これを果たしていこうとすることが重要である。</p>

3 本時の学習

<p>第5学年10月 第1週 1時間1主題学習</p>	<p>内容項目 主題名 教材名</p>	<p>C 規則の尊重 「権利と義務」 「これって「けんり」？これって「ぎむ」？」（東京書籍p.65）</p>
<p>ねらい</p>	<p>学習発表会に向けてキャストを選出する際、ピアノの練習を優先したい村田さんと、村田さんをメインキャストに推薦したい友達とが学習発表会の成功のために話し合いをするという状況から、自分だったらどうするかを考え、交流することを通して、権利と義務の関係について理解し、集団生活を送る上で自他の権利を尊重し合い、自分の義務を進んで果たそうとする意欲や態度を育てる。 補充</p>	
<p>事前の取組</p>	<p>【他教科・他領域との関連】 ・学級活動－生活目標「じゅんびオッケー運動」の励行や、後期の係活動の計画など。 【家庭・地域社会との関連】 ・家庭ではどんなきまりや約束があるのか、話し合ってくる。</p>	
<p>指導過程</p>	<p>問題解決的な学習が中心の過程 研究視点2</p>	
<p>過程</p>	<p>児童の活動</p>	<p>教師の働き掛け・留意点等</p>
<p>方向付け</p>	<p>○問題文の中にある空欄に、権利か義務のどちらの言葉が入るか考える。 ○権利と義務の言葉の意味について確認する。</p>	<p>※朝読書を利用して教材を読ませておく。 ○ロイロノートを用いて回答を集約する。 ○権利はしてもよいこと、義務はしなくてはいけないことと確認する。</p>
<p>価値の追求把握</p>	<p>○問題点を考える。 ・お互いが自分の権利と義務を主張し合っていること。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;">お互いの権利を大切にしながら義務を果たすにはどうしたらいいだろう。</div> ○村田さんとクラス全体の権利と義務は何か考える。 ・村田さんは役を選ぶことやピアノをする権利があり、劇に協力する義務がある。 ・学級ではキャストをお願いする権利があり、全員の意見を大切にすることを義務がある。 ◎学習発表会を成功させるためにどうすべきか考える。 ・村田さんにキャストをお願いしながらも、練習日程を調整する。 ・村田さんの意見を聞き、他にもできそうな人にキャストをお願いする。</p>	<p>○教材を読む。 ○「この話で考えるべき問題は何ですか。」 ○「村田さんの権利と義務は何でしょう。」 「クラス全体の権利と義務は何でしょう。」 ・ロイロノートを用いて、意見を集約する。 研究視点2 ◎「自分がこの学級の子供だとしたら、学習発表会を成功させるためにどうしたらよいでしょう。」 研究視点2 ・ロイロノートを用いて意見を集約し、全体に共有しながら交流できるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">多面的・多角的な見方に発展しているか。(発言、ロイロノートの記入) 研究視点3</div></p>
<p>価値の主體的自覚</p>	<p>◇学習の振り返りをする。</p>	<p><振り返りの視点> ・分かったこと、明らかになったこと。 ・自分の考えが変わったこと。 ・友達の考えでなるほどと思ったこと。 ・今回の学びをどのように生かすか。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">自分自身との関わりのなかで、深めているか。(振り返りシート) 研究視点3</div></p>
<p>まとめ</p>	<p>○教師の説話を聞く。</p>	
<p>事後の取組</p>	<p>【他教科・他領域との関連】 ・学級活動－係活動や当番活動での話し合い 【家庭・地域社会との関連】 ・道徳ノートや学級通信などを通して、家庭でも実践できるように呼び掛ける。</p>	

4 授業の実践

道徳性の諸様相に応じた「指導方法」

本実践では、児童が友達との交流を基に「多面的・多角的」に考える手立てとして「ロイロノート」を活用しました。価値の追求・把握の場面では、発問において児童一人一人がテキストを入力し、提出箱に提出しました。回答は児童と共有し、常に全員の考えを見ることができる状態にし、その回答を見ながら意見を交流しました。このようにして、学級全員の考えを知ることができる環境を整えることで、自他の考えや、友達同士の考えを比較したり統合したりしながら、多面的・多角的に考えることができるようにしました。

児童の事後アンケートから、「ロイロノートを使用して友達と交流することは楽しい」と感じている児童が100%であることが分かりました。その理由として「発言していない人の意見も知ることができる」「一度に多くの人の意見を見ることができる」といったことが多く、ロイロノートを活用することは、多面的・多角的に考えるきっかけづくりに有効であると考えます。しかし、情報量が多いため、友達の意見をただ眺めるだけになってしまっている状態も見られました。価値の理解を深め、多様な視点で物事を考えるために必要な情報を教師がいくつか選択し、比較したり統合したりできるようにする場面も必要であると考えます。また、全ての発問において考えを提出させたため、中心発問の交流時間が不足してしまいました。どの発問の場面で考えを提出し交流すべきかを精査していく必要があると考えます。

<p>④「がわからずに『自分勝手』というのではなく事情を聞いてそこからどうすればいいかを考えたり無理だったら他の人にしてもらいたい他のことで劇を支えたいと思います。」</p>	<p>◎村田さんに本当にできないか聞いて、無理だったら無理にやらせず他の人を探し、決して村田さんに文句を言わない</p>
<p>◎村田さんをすいせんしただけで、やらなきゃいけないわけじゃないから、無理に押さない。</p>	<p>村田さんの都合と学級の児童の意見を合わせて、みんなが納得する結果にする義務がみんなにある。</p>

【提出された児童の考え(抜粋)】

よりよい生き方を探究し続けるための自己評価

本実践では、価値の主體的自覚の場面で、「道徳振り返りシート」を用い、自己評価を行いました。自己評価は「授業の学び方」と「価値について自分自身の生活と関わらせての振り返り」の2つの視点で行いました。

授業の学び方は「自分で一生懸命考えることができた」「人の意見に耳を傾けられた」「考え深める発言ができた」「自分の考えが深まった」の4つの視点で評価しました。今まで道徳科の学習で学び方に意識が向いていなかった児童も、継続して学び方を評価することによって「次はもっと発言しよう」「今回は発言があまりできなかったけど、人の意見を聞いて考えることができたから、続けよう」といった記述が振り返りに見られるようになりました。このことから、適切な学び方を理解し、次時への意欲をもつことができたと考えます。

振り返りでは、価値について理解したことを基に自分の生活を振り返り、よいと思う行動ができた自分を認めたり、今後どのように行

今日のテーマ (けんり)とごむを両立させるためには	
自己評価	今日の学習で学んだこと、感想など
自分で一生懸命考えられた	◎ 今日は、人もそれぞれの立場でのけんりごむがあるのて
人の意見に耳を傾けられた	○ 相手の意見をできるだけゆだねし、クラスみんなが無理せ
考えを深める発言ができた	○ ま、納得してくれるような、解決策を出すこと。
自分の考えが深まった	◎ 自分もその相手の立場にあった人のけんりやごむをゆだねるこ
	とからできたら、それでこれからけんりごむを両立させるためにはどうすればいいかを考えていきたいです。

【児童の自己評価(本時)】

10月	
1番に残ったテーマ、教材 (けんり)とごむを両立させるには	
学び方	今月学んだこと、その後の自分の行動
自分で一生懸命考えられた	○ 両立させることができたから、たのびはる。
人の意見に耳を傾けられた	○ ごむを重んじて作らした。だけど、困ってる人を
考えを深める発言ができた	△ たらたすけらなび、かんたんなことならできた。このテ-
自分の考えが深まった	○ こを学んだのは、りるは「んぐ」だったところだ
	から、でも、ごむが、かきいんが、あ、し、くた、いと、か、も
	でき、ない、し、や、わ、ら、か、く、な、い、ゆ、ず、れ、て、な、い、こ
	かんじ、でも、や、わ、ら、か、さ、だ、(10月)だ、め、だ、(けんり)と
	ごむ、でも、だ、め、こ、こ、を、学、べ、た、と、思、い、ま、す。

【児童の自己評価(1か月)】

動していきたいかを考えたりするような記述が多く見られました。さらに、友達との交流で納得した考えを記述する児童もいました。

また、これらの1時間ごとの評価を蓄積し、いつでも自分の学びを振り返ることができるようにするとともに、1か月間の学びをまとめて振り返る機会を設定し、自分の変容に気付くことができるようにしました。評価は「1か月を通した授業の学び方」と「今月学んだことやその後の自分の行動」の2つの視点で行いました。本実践で使用した教材と別の教材を選択する児童もいましたが「学んだことを生かして自分の行動として実践することができた」という記述や、「実践まですることはできなかったけど、意識をすることはできた」といった記述が見られました。道徳科の学習を生かして、自分の生き方について考え行動につなげようという、意欲や態度につなげることができたと考えます。

IV 2年次研究の成果と課題

2年次研究では「道徳性の諸様相に応じた『学習指導過程』（問題解決型を中心に）、『指導方法』」「よりよい生き方を探究し続けるための児童の自己評価」を重点として研究を進めました。

1 研究の成果

- 児童が友達との交流から多面的・多角的に考えるためにロイロノートを活用することで、発言者の意見だけでなく、学級全員の意見と自分の考えを比較したり統合したりするきっかけづくりをすることができました。
- 自己評価において、道徳科の学び方について振り返ることで、授業における適切な学び方を理解するとともに、次時への意欲へつなげることができました。
- 1か月間の学びをまとめて振り返る機会を設定することで、道徳科の授業で学んだことを意識して生活の中で実践しようとする児童が増えました。

2 今後の課題

- ロイロノートを活用することは価値の理解を深め、多様な視点で物事を考えるために重要ですが、必要な情報を教師がいくつか選択し、比較したり統合したりできるようにする場面を意図的に設定していく必要があります。また、学習過程の中でどの場面でロイロノートを活用すべきか精査する必要もあります。
- 児童が道徳科の学習で学んだことを生かす場ができるだけ多くなるように、教育課程を見直し、事後の取組について精査していく必要があります。

V 参考文献

- 小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 文部科学省 廣済堂あかつき 平成29年6月
- 初等教育資料No. 973 「新学習指導要領に向けた指導の在り方『道徳』」
文部科学省 東洋館出版社 平成30年11月
- 子どもが考え、議論する 問題解決型の道徳授業 事例集
柳沼良太 図書文化 平成28年6月
- 道徳の理論と指導法 柳沼 良太 図書文化 平成29年10月
- 新教科・道徳はこうしたら面白い
押谷由夫 諸富祥彦 柳沼良太 図書文化 平成26年11月
- 価値観を広げる道徳授業づくり 高宮正貴 北王路書房 令和2年10月